

「地域に根ざしたキャリア教育推進フォーラム」

令和7年10月24日(金) 青森県総合社会教育センター大研修室 受講者数 74人

1 内容

【表彰式】「あおもりキャリア教育応援企業表彰」

【講 演】「ちいさなしあわせを重ねあわせる

～『ふるさと』をつくるキャリア教育を考える～

講師 大正大学地域創生学部

教授 牧野 あつし 氏

【意見交換会】

「企業側からみたキャリア教育の実際」

～あおもりキャリア教育応援企業表彰者の声を聞く～

【講師経歴】

大学院博士課程修了後、1992年から名古屋大学大学院教育学研究科・教育学部助教授、2008年からは東京大学大学院教育学研究科・教育学部教授に就任し、2025年3月に退職。現在は大正大学創生学部教授を務める。また、中央教育審議会生涯学習分科会委員、第4期教育振興基本計画特別部会委員、農林水産省農村RMO推進研究会アドバイザー等を歴任し、各地の自治体と社会教育についての共同調査やまちづくり事業などを展開している。主な著書は、「ちいさな社会」を愉しく生きる』(さくら舎、2024年)、『公民館を再発明するー小さな社会をたくさんつくる・3』(東京大学出版会、2024年)、『公民館をどう実践してゆくのかー小さな社会をたくさんつくる・2』(東京大学出版会、2019年)などがある。



2 講演要旨

- 少子高齢人口減少社会から人生100年社会へ。高齢者への対応から、こどもたちを主役に持続可能な社会をつくる。
- 小学生時代にボランティアなどの経験を積んだ者は社会貢献意識が高まる。参加・協力を経験したこどもは、他者のために行動することを好み、利他性と互恵性が高まり、他人への協力を好み、国への誇りを持つようになる傾向がある。
- PDCAからAAR(A:Anticipation(見通し)、A:Action(行動)、R:Reflection(振り返り))へ方法論を変えることで、大人と触れ合い、認められ、役立てることを知り、地域に魅力を感じ、「かかわり」が「ふるさと」になる。
- 「ふるさと」をつくる、「ふるさと」に生きる全員が当事者として「よきこと」をつなげ、次の世代にかかわることで、「よきこと」が連鎖し、「よき社会」が生まれる。

3 受講者の感想

- ・世代が違うから分かち合えないと思いつつ、最初から諦めずに、互いを認め合い、よい人間関係の中で誰もが力を発揮できる職場づくりにつなげてみたいです。
- ・地元がいい。地元に残りたい。戻ってきたい。そういうこどもが大人になっていく地域にするために、大人がこどもともっとかかわる人になり、地元のことを知ってもらうことが大切だと思いました。
- ・こどもたちが地域の大人と関わる場があり、島根県益田市のように自分たちの役割があることで、ふるさとに対し役に立ちたいと思える青森県をすぐにやってみたいと思いました。
- ・働くということ、好きなこと、それにこどもたちがどう関わるか。いわゆる勉強だけでなく、授業カリキュラムの一つとして、知る、体験する機会を教育の場でつくることを検討してほしいと思いました。
- ・地元の企業としてふるさとに根付きたい、こどもたちと関わりたいというところから、何ができるかを考えさせられました。地元でよりよい選択ができるよう、PRできればと思います。

